

国語

出題の傾向

来年度の入試から、傾向が多少変更となります。①の現代文は評論または随筆から、漢字・語句の意味・品詞の識別・指示語・内容把握などを、②の古文は、随筆や説話などから、歴史的仮名遣い・語句の意味・内容把握などを、例年通り語注や現代語訳で補助をして出題予定です。ただし、各問題の語数や設問数は少なくなります。その分、新たに③として、「思考力・判断力・表現力」を問う形式の問題を出題する予定です。新傾向の入試概要については、本校の入試説明会にて直接お話する予定です。ぜひ説明会に来校されることをお勧めします。なお、秋以降になるかと思われませんが、模擬問題など、他の形で紹介も検討していますので、学校にお問い合わせ下さい。

2018 今年度の出題と解説

①の現代文は、『思考の整理学』（外山滋比古）からの出題でした。本文の内容は、人間の頭脳と、「忘れること」の関係性について論じた文章でした。論理的な語り口で、比喩などを盛り込みながら、わかりやすく説明されている文章なので、論旨は理解しやすかったかと思えます。設問自体もごく標準的で、しっかりと練習を積んできた受験生にとっては、抵抗感なく取り組めたと思います。

問1 漢字の問題

どれも、本や新聞、ニュースなどでよく目にする言葉です。しかし、日頃から文章を読む量が少なく、語彙力に乏しい生徒は解答に苦労するのではないかと思います。典型的な例として、㉞「過多」の正解率が予想以上に低かったです。文中を見ると、「ところが」という逆接の接続詞が前にあります。これにより、「自然に従った生活」と「情報カタといわれる社会」が反対の意味になることが分かります。答えが連想できるのですが、この問題の正解に至るには、漢字の学習を積むことに加え、日頃から様々な表現に触れ、言葉を知っておくことが必要です。漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることももちろん大切ですが、日常生活の中で鍛えられる部分も非常に大きいことを覚えておいて下さい。

問2 国文法の問題（品詞の識別）

本校の頻出問題で、毎年必ず出題される問題だけに、きっちりと対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、毎年、きちんと対策してきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。㉠は、「失う」という動詞（＝自立語）の後について、その内容を打ち消している付属語なので、助動詞になります。形容詞の「ない」との見分けに注意しましょう。㉡は、「こと」という名詞を修飾しているため、連体詞です。㉢は、「入ってき（て）」という動詞を修飾しているため、副詞です。この連体詞・副詞についての見分けも、しっかり学習しておくべきポイントです。㉣は、基本形（＝終止形）に戻すと、「多い」という「～い」で終わる状態を示す語となるので、形容詞です。㉤も、同じように基本形（＝終止形）に戻すと、「大切だ」という、「～だ」で終わる状態を示す語となりますので、形容動詞となります。活用する用言は、基本形に戻せるよう、過去問で練習をしておいて下さい。

問3 空欄補充の問題（選択）

文脈を把握する力を試す問題です。こういう問題を解くには、周りの文から解くためのヒントを集めて、どんな言葉を入れたら文脈が成立するのかを確認することが重要です。例えば、[X]は、まず、直前の指示語「それ」の指示内容を確認します。その内容が、「ときどき在庫検査をして、なくなっていないかチェックする」とことだと理解すれば、「チェック」と同じような意味である「テスト」が正解だと導くことができます。[Y]は、「不可欠な排泄」と同じであるので、排泄が何にたとえられているのかを理解すれば正解にたどり着くことができます。少し後には、「勉強し、知識を…処分し、整理する必要がある。」とありますが、この「処分・整理」とも同意となります。ここまで考えれば、「忘れること＝忘却」が正解であると導けます。[Z]は、「あとあと必要そうなものと、不要らしいものを区分けする」とことです。これは、簡単に言うと「入れ替える」とことから、同じ意味を示す「新陳代謝」を選びます。

問4 空欄補充の問題（選択）

空欄に、適切な接続詞や副詞を入れる問題です。頻出かつオーソドックスな問題です。それぞれの言葉の持つ働きと、空欄の前後の文脈を読み取る力が必要です。[A]は、「倉庫としての…忘却は敵である。博識は学問のあるシヨウコであった。」と、最後に「こういう人間頭脳にとっておそるべき敵が…コンピューターである。…いったん入れたものは決して失わない」とありますから、空欄を境に、逆の内容を示していることがわかります。よって、逆接の接続詞「か」ところが」が入ります。[B]は、すぐ後にある「工場にやたらなものが入ってはいは作業効率が悪い」という言葉に着目します。前の文を見ると、工場は「新しいことを考え出す」場なので、それがうまく機能するための条件として、後の文をあげているのだとわかります。条件をあげるための言葉をさがすと、「何よりもまず」という意味の「エ だいいち」が入ります。[C]は、すぐ後にある「…起ったとする。」という言葉と、その後の記述から、具体例をあげる段落だとわかります。よって、「ア 例えば」が入ります。これは易しい問題です。[D]は、空欄の前後で「記憶しておくべきこと＝倉庫にいれるべきもの」という関係が成り立つので、イコールを示す言葉が入るはずですが、「ウ すなわち」が入りま

す。

問5 内容把握の問題（記述）

まず、設問に与えられた文を読んで、対比の関係にある二つの「頭の使い方」を探し出し、対応させるのだということを理解しましょう。その上で、傍線部が何を言っているのかということを考えます。傍線部の「工場」と「倉庫」は、解答の文では、「工場」＝（Ⅰ）「倉庫」＝（Ⅱ）で具体的に記述されなければならないことが理解できたでしょうか。そのチェックが終わったら、本文中でどのように具体的に記述されていたかを確認します。まず、（Ⅰ）の「工場」ですが、ポイントは二つ。「新しいことを創造する（作り出す）場である」ということ、さらに、二つ目。「その工場は整理されているべき所だ」ということです。本文中では、整理＝忘却ですから、それを的確に表現しましょう。次に、（Ⅱ）は、その逆の考え方ですから、倉庫はどんなものかを記述している部分を、本文中から探し出しましょう。「知識をどんどん蓄積する」の部分が該当します。

問6 内容把握の問題（記述）

設問をしっかりと読むことが大切です。ポイントは「偏見（ゆがめられた、かたよった見方）」とは何かを考えること。つまり、忘れることが本来のあり方とは違った受け取り方をしていない部分を探せば、解答を見つけることはそれほど難しくありません。

問7 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞などでわからない言葉に出合った時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたりして「語彙力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身につけていきます。国語の基礎となる力でもありますから、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。また、文の流れからどんなイメージの語かを確認することも重要です。例えば、③は、あまり良くないイメージの語が入るだろうと推測すれば、アとイはまず除外することができます。

問8 内容把握の問題（選択）

「黄金の時間」という比喩が何を示しているのかを読み解く問題です。そのヒントは、すぐ後に書かれています。「整頓されて、動きやすくなっている」から「黄金の時間」なのです。もちろん、「動きやすい＝頭が動きやすい」ことですから、アが正解になります。

問9 内容把握の問題（記述）

まずは、設問の条件をよく確認して下さい。「人間の頭を倉庫としてのみ使うことは意味がない」のはなぜかを聞かれているのですから、「人間の頭＝倉庫だけ使ってきた」状況を変える何かがあったはずですが、本文を読めば、その理由は明らかに「もっと優秀な倉庫＝コンピューターの出現」だと分かります。そこを記述すれば正解となります。別解として、「コンピューターのできないことをすべきだから。」という解答も正解です。

問10 内容把握の問題（選択）

「場ふさぎ」「ごろごろしている」という比喩が何を示しているのかを読み解く問題です。頭を倉庫にたとえていますから、そこを読み解きます。比喩の内容は、スペース＝頭の中に「場ふさぎがごろごろしている＝無駄なもの（忘却すべき情報）がたくさんある」ことですから、アが正解になります。

問11 脱文補充の問題（選択）

脱文補充をする時には、設問内に抜き出された部分から、ヒントとなる言葉をまず見つけることがコツです。その後、周りの言葉とのつながりを見て、正しい挿入部を見つけます。まず、「忘れる努力（＝積極的に忘れようと思うこと）が求められる」という部分に注目します。そして、これとつながる内容が前後に書かれている部分を探せばいいのです。【エ】の前の文の内容は、問10でも解説したとおり、「頭の中は限りがあるから、不必要な情報を置いておくの不都合だ」という意味だと読めます。他の挿入部分の前には、「積極的に忘れる必要がある」状況は書かれていませんので、ここが正解ということになります。

②の古文は、鎌倉時代の説話文学である『宇治拾遺物語』からの出題でした。リード文が与えられていますので、そこをしっかりと理解しておくことがまず大切です。例年よりも語数は多いですが、内容は分かりやすく、現代語訳でのサポートも多くありました。また、問題の傾向も大きな変更はなかったため、基本的な古典の学習をしっかりとしている受験生であれば、高得点が狙えたと思います。

【現代語訳】（わかりやすく、言葉を補って訳しています）

「実はな、最近たいそう尊いことが起こるのだ。長年の間、ずっと一心不乱に法華経を誦讀して修行した御利益なのだろうか、このところ毎晩、普賢菩薩が象に乗ってお見えになるのだよ。だから、おまえさんも今夜はここに泊まって一緒に拝むがよい」それで狛師は、「何とも尊いことです。それなら、泊まって拝みましょう」と言って、その夜は泊まっていくことになった。

さて、聖は召使の子供を一人使っていたが、その子供に狛師は尋ねた。「聖のおっしゃるのは、どういうことかな。おまえもその仏を拝んだことがあるのか」「うん、五、六回見たことがあるよ」そう子供が言うので、狛師は『じゃあ、おれにも見えるかもしれない』と思って、聖のうしろで眠らずに待っていた。

陰曆九月二十日のことで、夜は長い。今か今かと待つうち、夜半過ぎかというころ、東の山の嶺より月がのぼるかのように見えて、嶺をすさまじく風が吹き渡るなか、室内は光がさし込んだように明るくなった。見ると、普賢菩薩が、白象に乗ってしずしずとやって来て、聖の住まいの前にお立ちになる。聖は感動の涙を流しながら拝み伏して、「これこれ、おまえさんも拝んでおるか」と言うので、狛師は、「どうして拝まないことがありますでしょうか。私も拝んでおりますよ。おお、まことに尊いことです」と応えたが、心の中では、『聖は何年も法華経を誦讀して修行されたのだから、その目に仏が見えるということがあるかもしれない。しかし、経の向き方の上下もわからない召使の子供やおれに見えるというのは、どうも納得できない』と心の中で思って、『よし、確かめてみよう。真実を求めるのだから、罰当たりなことではないぞ』

狛師は、とがり矢を弓につがえて強く引き、拝み伏している聖の頭の上を越してヒュッと矢を放った。矢が仏の胸に当たったと見えると同時に、火を消すように光は失せて、何者かが逃げ去っていく音が、闇の山谷に轟いた。聖は、「わあ、なんてことをしてくれるんだ」と叫んで、泣きわめくばかりであったが、狛師が言うには、「聖の目に見えるのはもともととして、私のような罪深い者の目にも見えるので、射てみたのです。ほんとの仏なら、まさか矢が当たることはないでしょう。あれは妖しい物ですよ」夜が明けて、血の跡をたどって行ってみると、一町ばかり行って谷の底に、大きな狸が胸に尖り矢を射通されて横になって死んでいた。

問1 語句の意味を問う問題（選択）

少し難しいところもありますが、話の流れをよく考えて解答しましょう。どの問題も、周りの内容を確認しながら答えれば、正解にたどりつけます。それぞれの正解については、現代語訳を参照して下さい。

問2 歴史的仮名遣いの問題（記述）

本校では毎年出題されている問題です。必ずできるように勉強しておいて下さい。

問3 内容把握の問題（記述）

本文の記述をよく読みましょう。狛師は、聖の言うことがにわかに理解できず、童に尋ねてから、このような気持ちになっていますね。

問4 主語把握の問題（記述）

登場人物をしっかりと整理しながら読めば、それほど難しい問題ではなかったと思います。古典では主語を省略した文章が多いですから、問題演習の際には、しっかりと誰の行動かを確認しつつ読み進める練習が効果的です。

問5 空欄補充の問題（記述）

問4と同じく、登場人物の情報をしっかりと確認しましょう。本文1行目、2行目を読めば、は象は簡単に入ると思います。さらに、は、普賢菩薩の登場時の演出のような状況説明となっていますが、狛師の矢が普賢菩薩に当たった後に、この

風景は一変します。その部分を読めば、=光が入ると思います。なお、「火」という誤答が多かったですが、本文の記述では「火を消すように」というたとえで使われているのであって、消えたのは「光」です。

問6 内容把握の問題（選択）

文章全体の意味が分かれば、そう難しくない問題だと思えます。登場人物の言葉や行動が大きなヒントになります。現代語訳を参考に考えてみましょう。同じ「泣く」でも、（あ）はうれし泣き、（い）は泣き叫ぶ、といった違いがありますね。

問7 内容把握の問題（記述）

記述問題は、前から思いついたことを書くのではなく、解答に必要なことから書くようにしましょう。まず、最も重要なポイントは、「自分や童に普賢菩薩が見えること」が納得いかないということです。なぜならば、自分たちは学がなくて字が読めず、「お経の本の字の向きが上か下か」もわからないからです。

さらに、「修行を積んだ聖には見えて当然」という部分も忘れずに記述しましょう。聖と自分たちの違いを理解しているからこそ、疑問が生まれたと考えられるからです。

問8 内容把握の問題（選択）

正解は、「狛師」から推測すべき内容を含んでおり、少し難しい問題でした。他の選択肢の消去法で答える方法でも良いかと思えます。まず、「罪が深い」という言葉を考えます。アは、「罪が深い」ほどの理由にはなりません。イは、「怠けている」とは本文中では書かれていません。ウは、「信仰心のかけらもない」のであれば、尊い普賢菩薩を拝もうとは思わないはずですから、違います。最後にエですが、獣を捕る（=命を奪う）「狛師」という仕事から考えても、この話の本質である仏教的に考えても、「罪が深い」という条件に合致します。本文に直接は書かれていませんが、問題文の状況を考えて、論理的に充分正しいと推測できる選択肢は、正解となります。

問9 空欄補充の問題（記述）

本文の中心となる部分の問題です。狛師は、なぜ弓矢で普賢菩薩を射たのか、射た矢がささったのはなぜなのかを論理的に説明しています。そこを読み取り、最後の二行に書かれた種明かしをしっかりと読んでおけば、解答はそれほど難しくなかったはずですが。

問10 内容把握の問題（選択）

作者がこの話で一番伝えたい内容は、「冷静な判断力を持つことの大切さ」です。狸の化けた普賢菩薩に、修行を積んだ聖でもだまされてしまいますが、狛師は、冷静に状況分析をして、惑わされることなく、化けの皮をはがしました。これをしっかりと記述している選択肢アが正解となります。エという誤答を選んだ人が多かったです。この時代の「仏教説話」で、仏様の存在や価値を否定することはあり得ません。しかも、狛師も「本当の仏ならば矢が立つはずはない」と言っていますから、仏の存在自体は認めていると思われる。今は違った時代背景であることも考慮に入れます。

問11 文学史の問題（選択） 選択肢の作品は、全て耳にしたことがある作品だと思います。有名な作品については、便覧を見るなどして、どんな時代に書かれたものか、作者は誰なのか、どんな話なのか（あらすじ）を知っておきましょう。

対策と アドバイス

現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば必ず解答を得られるようになっていきます。練習の際には、たまたま合った、間違っただけで一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持った解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力＝読解力を養うように心がけましょう。来年度も、「漢字・口語文法（品詞の識別）・語句の意味・指示語・歴史的仮名遣い」など基本的なことを中心に問題を作成する予定です。

本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、日頃から常に文章に触れることが一番です。読書を通じてしっかりと読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。国語力は、全ての教科の基礎と言われています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかりと勉強して下さい。

新傾向の問題については、この紙面では説明いたしません。必ず出題します。それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせずに本番を迎えるのは不安だと思います。本校の発信する情報をしっかりと得て、練習を重ねてほしいと思います。